



HOWA values today and leaps toward the future.

決算説明会

2025年3月期 決算説明会

2025年5月30日

豊和工業株式会社

(証券コード：6203 東証スタンダード・名証プレミア)

2025年3月期 実績

☞ 火器防衛装備品の売上増加などにより前期比増収増益

✓ 火器防衛装備品の出荷が増加し増収増益

防衛省向け装備品、特に20式小銃の納入数が大幅に増加したことに加え、20式小銃の付属品などその他の装備品の売上も大幅に増加したことにより、大幅に増収増益

✓ 特装車両、建材は黒字化、工作機械関連は赤字継続

特装車両は路面清掃車の出荷台数が増加し黒字化。建材も防音サッシの値上げにより収益性が改善し黒字化
一方、工作機械関連は需要低迷により売上減、さらに滞留在庫の評価損計上により赤字継続

2026年3月期 予想

☞ 火器防衛装備品は引き続き堅調。その他事業も収益性改善により増収増益

✓ 火器防衛装備品は堅調に推移する見込み

20式小銃の納入数が前年より増加するなど、防衛装備品事業は堅調に推移する見込み

✓ その他事業は生産性改善などの取組みにより収益性改善し、特装車両、建材は黒字化

火器の海外向けスポーツライフルは、米国関税政策の影響などにより前年より減少を見込むが、特装車両、建材は、生産性の改善などにより収益性の改善を見込む

新中期経営計画

☞ 収益構造の抜本的な改革

✓ 最終年度で営業利益22億円、ROE8.0%、ROIC6.0%を目指す

「工作機械関連事業の市場規模に適合した収益構造への変革」と「既存事業の生産性向上による収益力の向上」に取組み、事業ポートフォリオを変革し、防衛装備品事業を中核として4つの事業領域がそれぞれの特性を生かしたニッチな分野を探索して事業戦略に取組む体制とし、「収益力の向上」を図る

✓ 事業拡大に向けた基盤の構築と企業価値の向上

当社の特性を活かすことができる新規事業の創出に取り組むとともに、収益力の向上により得た原資により財務基盤の健全性を維持しながら「成長投資」と「株主還元」の強化を図ることで、企業価値向上と持続的な成長を目指す

I 2025年3月期 連結決算概要

● ● ● ● ● ●

3

II 2026年3月期 連結業績予想

● ● ● ● ● ●

7

III 新中期経営計画

● ● ● ● ● ●

11

IV 添付資料

①経営理念

②財務データ

● ● ● ● ● ●

29

I 2025年3月期 連結決算概要

2025年3月期 実績



(百万円)

	2024年3月期		2025年3月期		増減		参考 2025年3月期予想値	
		構成比		構成比		増減率	2024/5/15	2025/2/14
売上高	19,786	100.0	24,827	100.0	+5,050	+25.5%	24,100	24,100
売上総利益	3,488	17.6	4,203	16.9	+715	+20.5%	-	-
営業利益	388	2.0	1,253	5.0	+864	+222.9%	760	1,120
経常利益	466	2.4	1,413	5.7	+947	+203.2%	790	1,250
当期純利益	△ 873	△ 4.4	749	3.0	+1,623	(黒字化)	680	870
ROE	△5.0%		4.2%		+9.2%			
ROIC	1.5%		3.5%		+2.0%			

【全 体】 火器防衛装備品や特装車両の出荷増加により売上高は前期より大幅増加。利益面では、火器の増収や特装車両、建材の収益性改善により増益。

【営業利益】 火器防衛装備品の増加や特装車両と建材で収益性が改善し黒字化となったことで全体で増益となった。
工作機械関連は、需要低迷により売上が減少したことに加え、滞留在庫の評価損計上により赤字が継続した。

【経常利益】 営業利益の増益に加え、資金調達費用の減少など営業外費用が減少し、経常利益も増益

【当期純利益】 経常利益の増益に加え、減損損失による特別損失が昨年より大きく減少したことにより当期純利益も増益

【ROE・ROIC】 営業利益や当期純利益の増加によりROE・ROICともに増加

2025年3月期 セグメント別損益実績



(百万円)

	2024年3月期		2025年3月期		増減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	増減率	営業利益	増減率
工作機械関連	6,656	△ 367	6,962	△ 457	+306	+4.6%	△ 89	(赤字縮小)
工作機械	5,067		4,994		△ 73	△ 1.4%		
空油圧機器	1,425		1,406		△ 19	△ 1.3%		
電子機械	162		561		+399	+246.3%		
火器	4,465	382	7,903	911	+3,438	+77.0%	+529	+138.5%
特装車両	1,874	△ 133	3,328	129	+1,454	+77.6%	+263	(黒字化)
建材	3,165	△ 40	3,014	39	△ 151	△ 4.8%	+80	(黒字化)
不動産	493	396	494	396	+0	+0.2%	+0	+0.0%
その他	3,132	152	3,124	232	△ 8	△ 0.3%	+80	+52.6%
合計	19,786	388	24,827	1,253	+5,040	+25.5%	+864	+222.9%

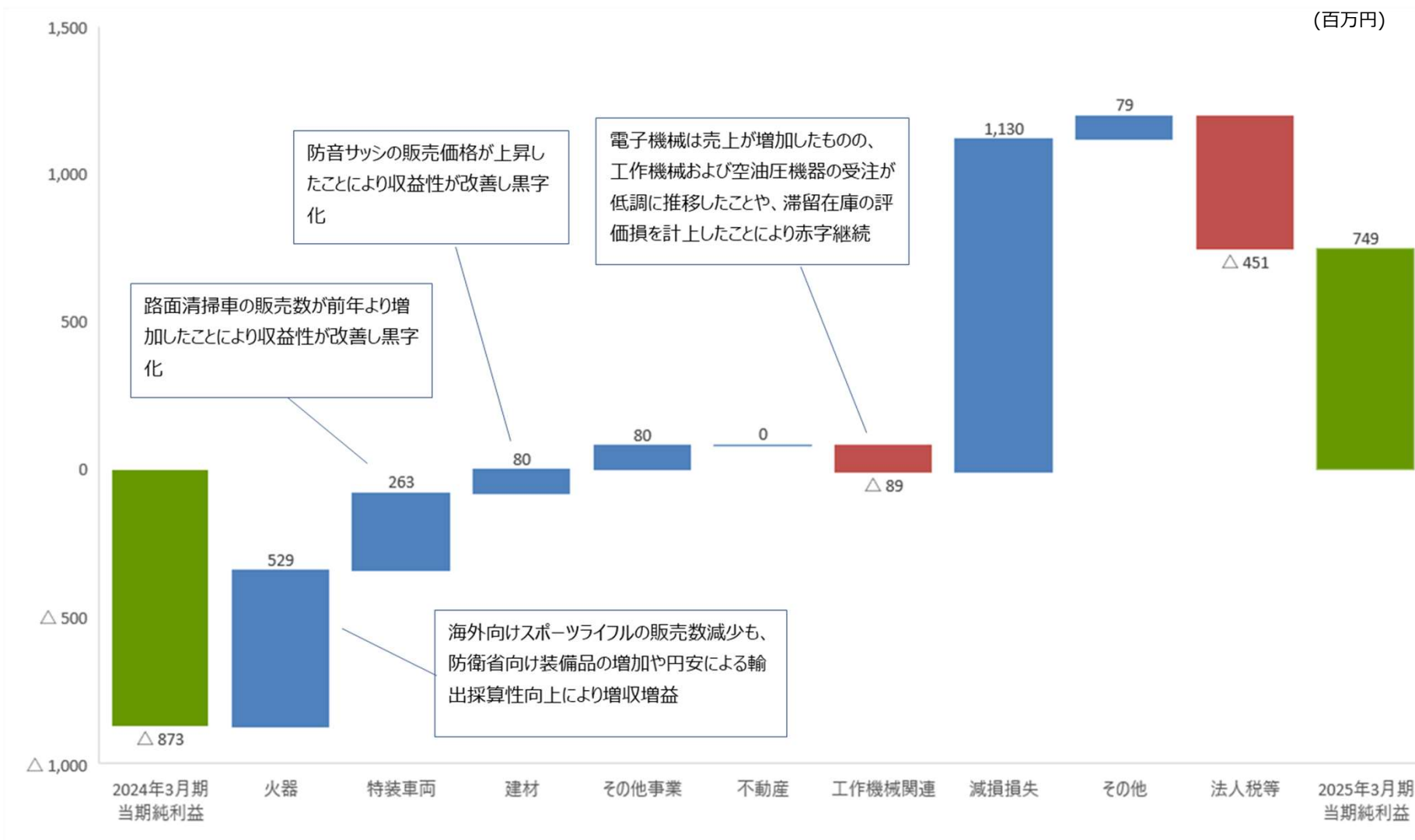
【増減要因】

工作機械関連	電子機械は売上が増加したものの、工作機械および空油圧機器の受注が低調に推移したことや、滞留在庫の評価損を計上したことにより赤字継続
火器	海外向けスポーツライフルの販売数減少も、防衛省向け装備品の増加や円安による輸出採算性向上により増収増益
特装車両	路面清掃車の販売数が前年より増加したことにより収益性が改善し黒字化
建材	防音サッシの販売価格が上昇したことにより収益性が改善し黒字化
その他	国内販売会社、国内運送会社が増益

2025年3月期 利益変動要因



(百万円)



Ⅱ 2026年3月期 連結業績予想

2026年3月期 業績予想



(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期		増減	
		構成比		構成比		増減率
売上高	24,827	100.0	24,900	100.0	+72	+0.3%
売上総利益	4,203	16.9	4,420	17.8	+216	+5.2%
営業利益	1,253	5.0	1,310	5.3	+56	+4.5%
経常利益	1,413	5.7	1,420	5.7	+6	+0.5%
当期純利益	749	3.0	930	3.7	+180	+24.2%
ROE	4.2%		4.9%		+0.7%	
ROIC	3.5%		3.5%		±0.0%	

【全 体】 火器防衛装備品は堅調に推移し、特装車両、建材、工作機械関連も増収増益となり、全体で増収増益

【営業利益】 火器の20式小銃の納入数が前年より増加することに加え、特装車両は生産性の向上により増益、建材は防音サッシの値上げにより収益性が改善され増益となる見込み。

また、工作機械関連も売上の増加および収益構造の改革による改善で黒字化を見込む。

【経常利益】 営業利益の増収に伴い、経常利益も増益

【当期純利益】 経常利益の増加に伴い、当期純利益も増益

【ROE・ROIC】 ROEは増加、ROICは前年並み

2026年3月期 セグメント別損益予想



(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期		増減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	増減率	営業利益	増減率
火 器	7,903	911	7,739	448	△164	△2.1%	△463	△50.8%
特 装 車 両	3,328	129	3,218	213	△110	△3.3%	+83	+65.1%
建 材	3,014	39	3,081	122	+66	+2.2%	+82	+212.8%
工作機械関連	6,962	△457	7,496	2	+533	+7.7%	+459	(黒字化)
不 動 産	494	396	494	396	±0	－	±0	－
そ の 他	3,124	232	2,872	129	△252	△8.1%	△103	△44.4%
合 計	24,827	1,253	24,900	1,310	+72	+0.3%	+56	+4.5%

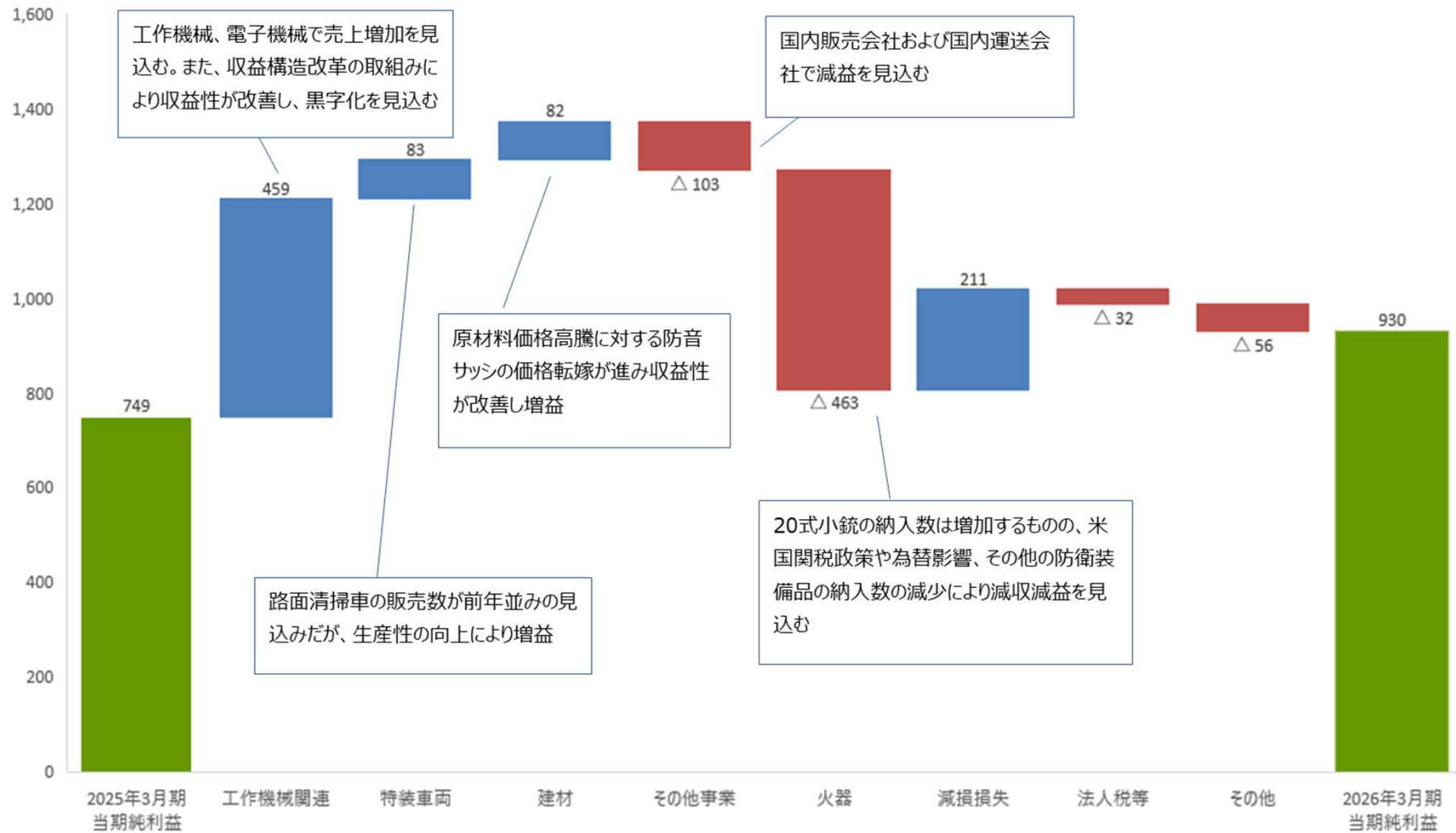
【増減要因】

火 器	20式小銃の納入数増加など防衛装備品は堅調に推移するものの、米国関税政策や為替影響により減収減益を見込む
特 装 車 両	路面清掃車の販売数が前年並みの見込みだが、生産性の向上により増益
建 材	原材料価格高騰に対する防音サッシの価格転嫁が進み収益性が改善し増益
工作機械関連	工作機械、電子機械で売上増加を見込む。また、収益構造改革の取組みにより収益性が改善し、黒字化を見込む
そ の 他	国内販売会社および国内運送会社で減益を見込む

2026年3月期 利益変動要因

Howa

(百万円)



Ⅲ 新中期経営計画

(2026年3月期～2028年3月期)

事業環境の変化に対応した**収益構造の抜本的な改革**が必要

事業環境認識

- 自動車のEV化の流れが鈍化しており、サプライチェーンの不確実性により自動車関連メーカーの設備投資需要が不透明である
- 防衛予算の増大や地政学的なリスクの増加により防衛装備品に対する需要は増加すると想定される
- ニッチマーケットである路面清掃車や防音サッシは継続して一定の需要が維持される見込み

対処すべき課題

- 工作機械関連事業において市場規模に適合した収益構造への変革
- 既存事業の生産性向上による収益力の向上
- 新しいマーケット開拓や新しい製品の開発

基本方針

収益構造の抜本的な改革

事業戦略

事業環境の変化に応じて経営資源を配分し、事業特性を活かしたニッチトップを目指す体制の構築により既存事業の強化及びオーガニック成長による稼ぐ力の向上を図る

財務戦略

財務基盤の健全性を維持しながら、成長投資と安定的な株主還元を実現することで、持続的な成長による企業価値の向上を図る

ESG経営

特定したマテリアリティに基づき、優先項目への取り組みを推進

- ・ カーボンニュートラルの実現に向けた推進
- ・ 人的資本、DX推進による経営基盤の強化

収益構造の抜本的な改革により、中長期ビジョンにおける事業拡大や企業価値向上につなげるための基盤構築

新市場・新規事業

- 当社の特性を活かすことができる新たな市場ニーズの調査
- 将来の事業拡大に向けた財務体質の強化

- 新たなマーケット参入や製品の投入により事業領域を拡大
- M&Aなどにより新たな資源やリソースを得ることで、インオーガニック成長も追求

既存事業

- 内部資源を有効活用し、生産性の向上などによる収益力の増強
- 需要に対応した生産能力の確保による安定供給
- 新商品、新サービスの投入

新中期経営計画

中長期ビジョン

2026/3期

2028/3期

将来

資本コストと利益を意識した戦略により下記の指標を目標とする

	目標値	2025/3期実績
営業利益	22.0億円	12.5億円
ROE	8.0%	4.2%
ROIC	6.0%	3.5%

重点施策① 工作機械関連事業の収益構造改革



取組テーマ	取組内容	
市場規模に合わせた体制への再編	共通	人員、工場設備のリソース再配分により事業規模にあった体制とする
	工作機械	中国子会社の縮小
採算性を重視した製品戦略・販売戦略の推進	工作機械	製品カテゴリの絞り込みによる採算性向上
	空・油圧機器	機種統合再構築による販売/開発/生産の最大効率化
	電子機械	当社仮積層機の主力領域である高精度積層需要に対応し、国内市場でのシェア拡大を目指す
生産性向上とコストダウンの推進	共通	設計・生産工程管理の最適化と人材育成の強化
	空・油圧機器	自動化加工ライン構築による工程集約 内製化拡大による付加価値向上と競争力強化
ニッチトップとなる領域の開拓と競争力の強化	工作機械	二輪・四輪以外の分野での競争力を強化 インド拠点設立によるエンジニアリングサービス展開
	空・油圧機器	生産性と効率性を大幅に向上させる、クイックチェンジパワーチャック、重切削対応中空パワーチャック、スピコンレスクランプシリンダの市場投入による競争力強化
	電子機械	半導体関連市場への進出 新技術、新製品開発による収益基盤強化

重点施策② 既存事業の収益力向上



	取組テーマ	取組内容
火器	防衛装備品の安定供給	防衛装備品（20式小銃・120mm迫撃砲など）の安定供給体制と後方支援体制の強化
	スポーツライフルの収益力強化	ブランド認知度向上を推進 為替変動に依存しない収益力の強化
特装車両	路面清掃車の安定受注	営業力強化による安定需要の確実な取り込み
	顧客満足度と生産性の向上	営業～設計～生産の各プロセスの改善と連携強化 安定需要に対応した計画的な生産体制の確立
建材	防音サッシの収益力強化	営業力の強化と単価改定、原材料価格高騰分の価格転嫁の促進
	防水製品の販路拡大	防水扉・ミズヲトメの拡販活動促進 新製品投入、ラインナップ拡充
その他 共通	利益率の向上	直接・間接問わない全社横断的なコスト低減による利益率向上
	リソースの再配分	全社の人材、設備等のリソースを再配分し最適化
	本社・グループ会社の最適化	本社及びグループ会社のあるべき姿・機能を再定義し、業務の最適化と管理機能を強化する

重点施策③ 新事業・将来事業の創出



取組内容	
火器	次世代装備品の提案を通じた新規防衛関連ビジネス創出
	高命中精度を活かした製品バリエーション拡充とハイエンドモデル開発による海外市場シェア拡大
特装車両	海外市場や中古車市場への参入による新たな収益機会の獲得
	ICT・IoT技術を活用した高付加価値製品と新サービスの創出
	脱炭素社会に貢献するEV製品の販売推進
建材	スマート防水製品の開発を通じたシステム提案型ビジネスへの転換
	新たな収益基盤確保のための製品開発に向けた取組み推進

アクションプラン 火器事業

Howa

防衛装備品



20式5.56mm小銃及び付属品

海外輸出（スポーツライフル）



APCシャーシアメリカンフラッグ

売上高

82億円

25/3期実績

79億円

営業利益

7.0億円

25/3期実績

9.1億円

アクションプラン

■ 国内（防衛装備品）

20式5.56mm小銃および同付属品周辺機材の販売拡大

次世代小銃を見据えた研究開発の推進

内製加工ラインのC T短縮や省人化による生産性向上

■ 海外輸出（スポーツライフル）

上位モデルの新規開発により、海外スポーツライフル市場の中価格帯において市場シェアを獲得

既存モデルでは新口径など製品バリエーションの拡大により市場シェアの維持向上を目指す

■ 国内・海外輸出共通

直接・間接問わないものづくり全プロセスにおける生産性向上による利益率向上

アクションプラン 特装車両事業

Howa



路面清掃車



床面自動洗浄機



産業用清掃機

売上高

35億円

25/3期実績

33億円

営業利益

3.6億円

25/3期実績

1.3億円

アクションプラン

■ 路面清掃車

ICT路面清掃車の次のステップとなるIoT路面清掃車の開発

海外市場、中古車市場参入による市場領域の拡大

ものづくり全プロセスにおいて、直接・間接を問わない標準作業化と作業時間短縮による生産性向上による利益率向上

■ 産業用清掃機

脱炭素社会に貢献するリチウムイオンバッテリー搭載型EVタウンスーパーの拡販

先端技術を搭載したEVロボスーパーの開発



大型防水扉



アルティマ（防水自動ドア）



防音サッシ



一般サッシ

売上高

33億円

25/3期実績

30億円

営業利益

2.1億円

25/3期実績

0.4億円

アクションプラン

■ 防音製品

コスト増分の価格転嫁推進による利益率向上

住宅断熱基準強化に向けた断熱性を有した防音サッシの開発

生産プロセスにおける省人化及び物流改善による生産性向上

シェア拡大に向けた営業力の強化

■ 防水製品

協業企業とのタイアップ活動による販路拡大

大都市・公共・防災・防衛のインフラ関係をメインターゲットとした営業活動の水平展開

防水製品IoT化の開発推進

アクションプラン 工作機械関連事業（工作機械）

Howa



売上高
64億円

25/3期実績
70億円

営業利益
3.6億円

25/3期実績
▲4.6億円

※工作機械関連事業全体の数値となります

アクションプラン

- 事業規模の見直しと、それに合わせたコスト構造の構築
売上高に頼らず利益を出せるコスト構造(全プロセスにおける固定費の適正化)の実現
- 採算性を重視した営業戦略
標準機、標準モジュールでのシステム提案によるQCDの向上
- 生産性向上とコストダウンの推進
業務の流れ、物の流れを整流化し、日程管理を強化
マルチスキル人材の育成により、業務の属人化の排除と、平準化を達成
- 重要攻略市場であるインドでの拡販
インド拠点設立による顧客密着型の営業・技術提案・設備供給・アフターサービス体制構築により
受注拡大と顧客の囲い込み
- 自動車以外の分野の開拓
自動車 + α の顧客開拓(産業機器、船舶、デジタル機器)



パワーチャック



ロッドレスシリンダ



回転油圧シリンダ



自動爪交換システム

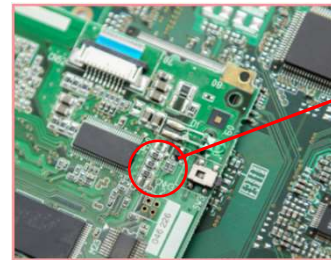
アクションプラン

- 新製品の投入による競争力の強化
市場のニーズを反映した、省力化製品、自動化対応製品の拡充
- 製品の統廃合による生産効率の向上
製品ラインナップを見直し、生産性向上、在庫削減、管理コスト低減
- 自動化加工ラインの構築と、工程集約
標準製品の生産工程を対象とした自動化及び工程集約による生産性向上
製造リードタイムの短縮による機会損失の低減

仮積層機



PLMシリーズ



電子回路基盤



積層チップ部品
(インダクタ)

アクションプラン

■ 販売戦略の見直し

高精度積層技術をセールスポイントとし、既存の海外市場だけでなく、国内市場にて拡販
新製品(高生産仮積層機、高精度仮積層機)を中心とした営業活動を展開

■ 新領域の開拓と競争力の強化

中国サービス拠点にデモ機を設置し営業活動を強化
新技術、新製品開発によるターゲット市場、製品の拡大

事業戦略 セグメント別目標数値



2028年3月期事業別計画 (単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	実績 (25/3期)	目標 (28/3期)	増減	実績 (25/3期)	目標 (28/3期)	増減
全社計	24,827	25,000	+173	1,253 5.0%	2,200 8.8%	+947
火器	7,903	8,200	+297	911 11.5%	700 8.5%	▲211
特装車両	3,328	3,500	+172	129 3.9%	360 10.3%	+231
建材	3,014	3,300	+286	39 1.3%	210 6.4%	+171
工作機械関連	6,962	6,400	▲562	-457 -6.6%	360 5.6%	+817
不動産	494	500	+6	396 80.2%	400 80.0%	+4
その他	3,124	3,100	▲24	230 7.4%	170 5.5%	▲60

収益力の強化などにより創出したキャッシュは、財務基盤の健全性を維持しながら「成長投資」と「株主還元」に積極的に配分する

キャッシュイン

営業CF
50億円程度

キャッシュアウト

成長投資
15～30億円

株主還元
8～15億円

財務基盤
強化
10～20億円

- ・ 生産設備の刷新による生産力強化
- ・ 研究開発投資による新製品開発
- ・ ITやインフラの整備による経営基盤強化
- ・ 人的資本投資による人材育成

- ・ 安定配当を基本とし、業績と連動し利益の上昇に応じた配当の積み上げ
- ・ 配当性向30%を目途に利益還元

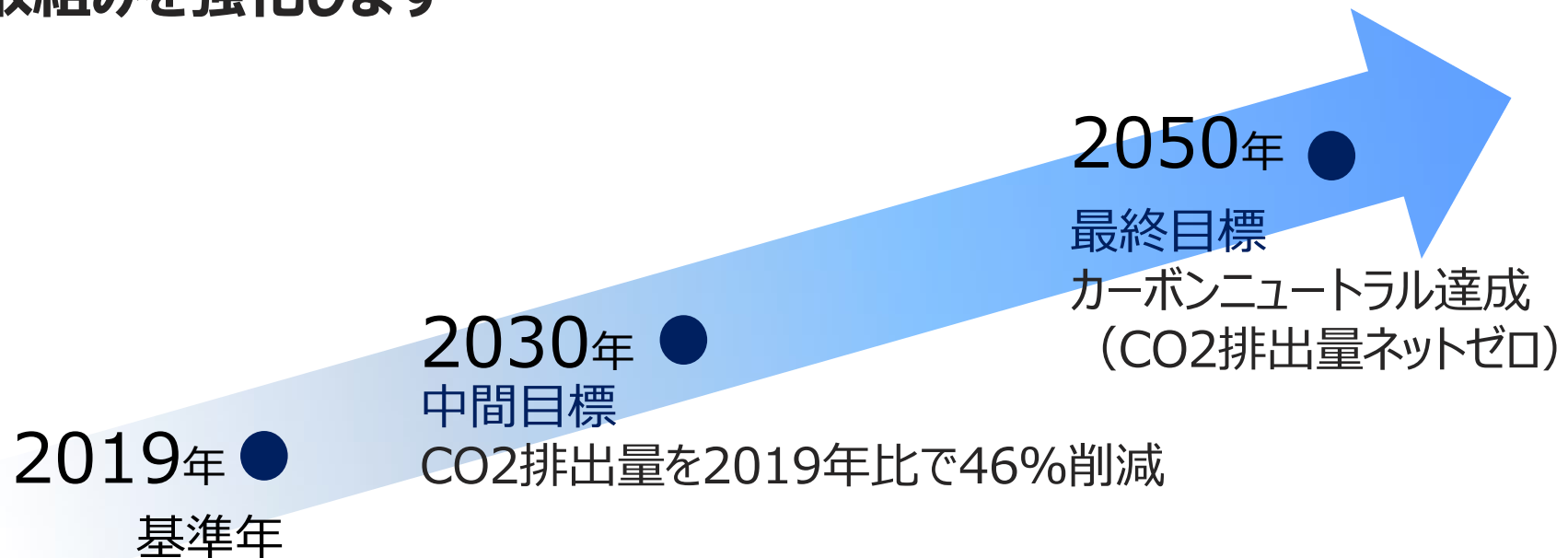
- ・ インオーガニック戦略など成長投資のための資金確保
- ・ 現預金や有利子負債のコントロールにより適切なDEレシオ水準を維持

※金額は3年間の累計

カーボンニュートラルに向けた取組み



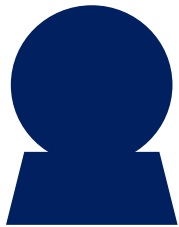
当社は、持続可能な社会の実現に向けて、カーボンニュートラルへの取組みを強化します



この目標を達成するために、以下の取組みを計画

- 製造プロセスの効率化によるエネルギー使用量の削減
- 再生可能エネルギーの導入拡大
- 環境負荷の少ない材料・部品の調達と使用
- 省エネ技術の研究開発と製品への適用
- カーボンオフセットの活用

当社は、人的資本の強化とDX推進を通じて、新たな価値創造を目指します



従業員エンゲージメント向上

エンゲージメントサーベイによる組織課題の明確化
1 on 1 ミーティングの浸透定着
株式報酬制度による企業価値向上への意欲の上昇



人材育成・スキルアップ

次期経営人材の育成
基礎知識・専門知識を習得するための社内外研修の実施



DX推進への取り組み

社内研修によるDX人材の育成
AI・RPA等の技術活用による業務改善

IV 添付資料 経営理念

「ものづくりを通じて、社会に貢献し、
企業価値の向上を目指します。」

■ 期待に応える

より良い商品とサービスを提供し、顧客の期待と信頼に応えます

■ 社会からの信頼

コンプライアンスを重視し、社会から信頼される会社であり続けます

■ 活力ある企業風土

議論・対話を尽くし、活力ある企業風土を醸成します

当社は長年にわたり、この経営理念を軸に事業活動を展開してまいりました
社会的責任を果たしながら、持続的な企業価値の向上に努めてまいります

まもる：人々の幸せな社会生活をまもり、
ものづくりと共に成長し続ける会社



技術の発展

技術の発展を支え、
世界のものづくりを**まもる**



社会インフラ

社会インフラ整備の貢献し、
社会の発展を**まもる**



国防

国防に貢献し、
国の安全と平和を**まもる**



安心な生活

災害から人々を防ぎ、
安心な生活を**まもる**

サステナビリティの基本方針

当社は「ものづくりを通じて、社会に貢献し、企業価値の向上を目指す」ことを経営理念として掲げ、100年を超える長い歴史の中で蓄積された技術とノウハウを結集し、幅広い分野において革新的な製品を産み出し、日本のものづくりの発展に貢献してまいりました。

これからも、当社の「人々の幸せな社会生活をまもり、ものづくりと共に成長し続ける」というパーパスに基づき、透明性の高い企業統治体制の下で事業活動を展開してまいります。特に環境課題の解決や社会との調和に対しては、より積極的かつ意欲的に取り組んでいく所存です。

当社はステークホルダーの皆様との信頼関係を大切にしています。株主・投資家の皆様、お客様、取引先の皆様、従業員、そして地域社会との対話を通じて、より良い関係構築に努めます。こうした取り組みにより、中長期にわたる持続的な企業価値の向上を実現してまいります。



ステークホルダーとの 信頼関係構築

透明性の高いコミュニケーションを通じてすべてのステークホルダーとの信頼関係を深めます



環境課題への取り組み

カーボンニュートラルをはじめとする環境課題に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します

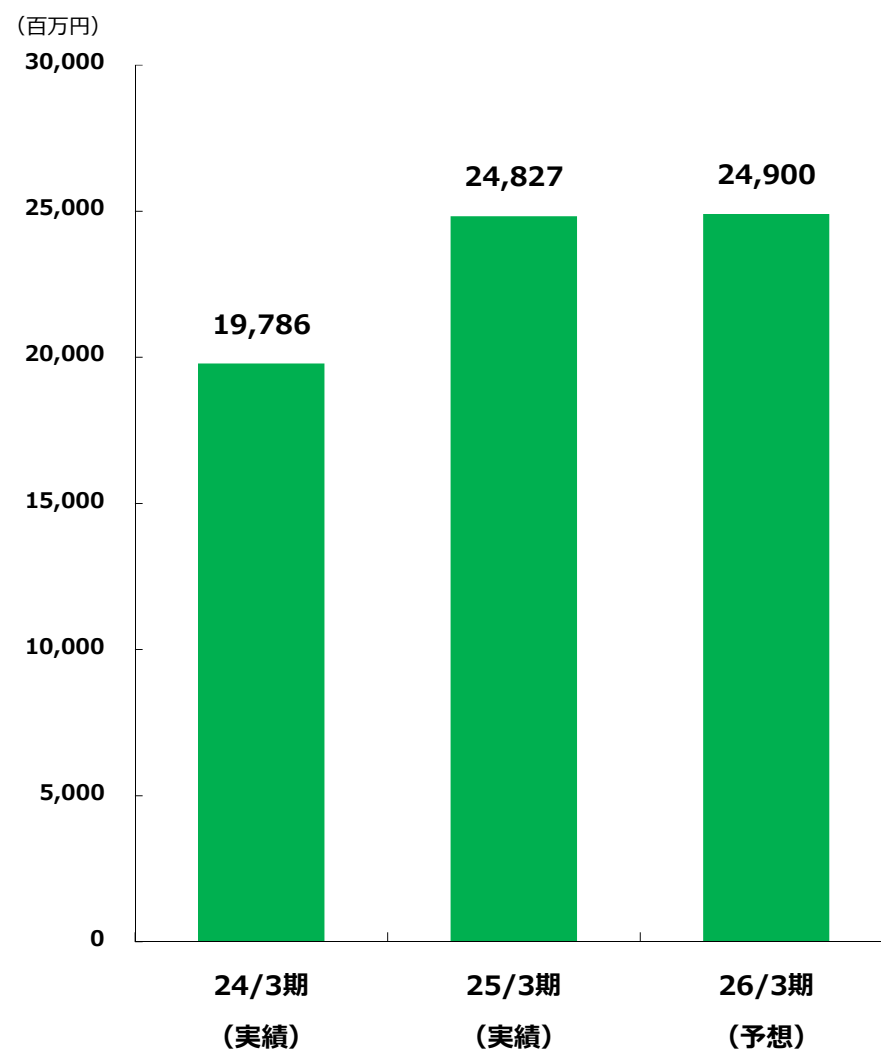


革新的なものづくり

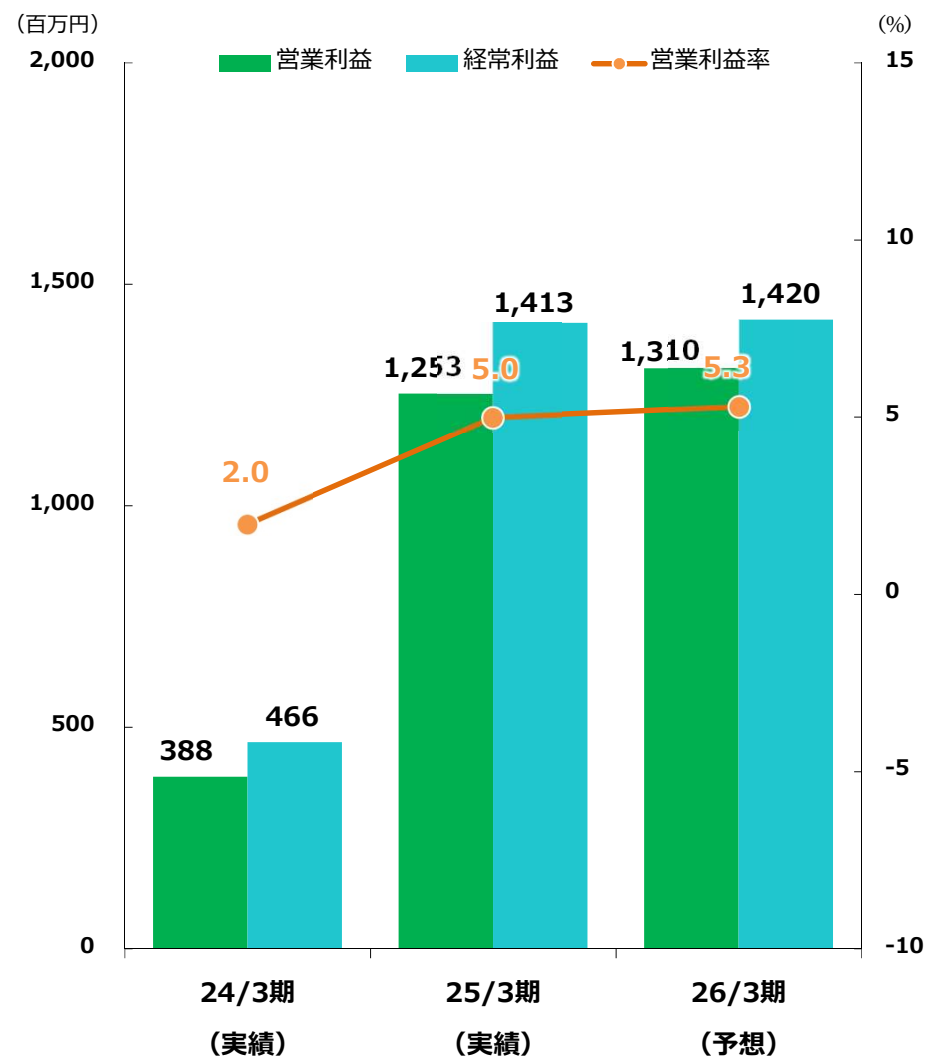
100年を超える歴史で培った技術とノウハウを活かし、社会に貢献する製品開発を継続します

IV 添付資料 財務データ

売上高

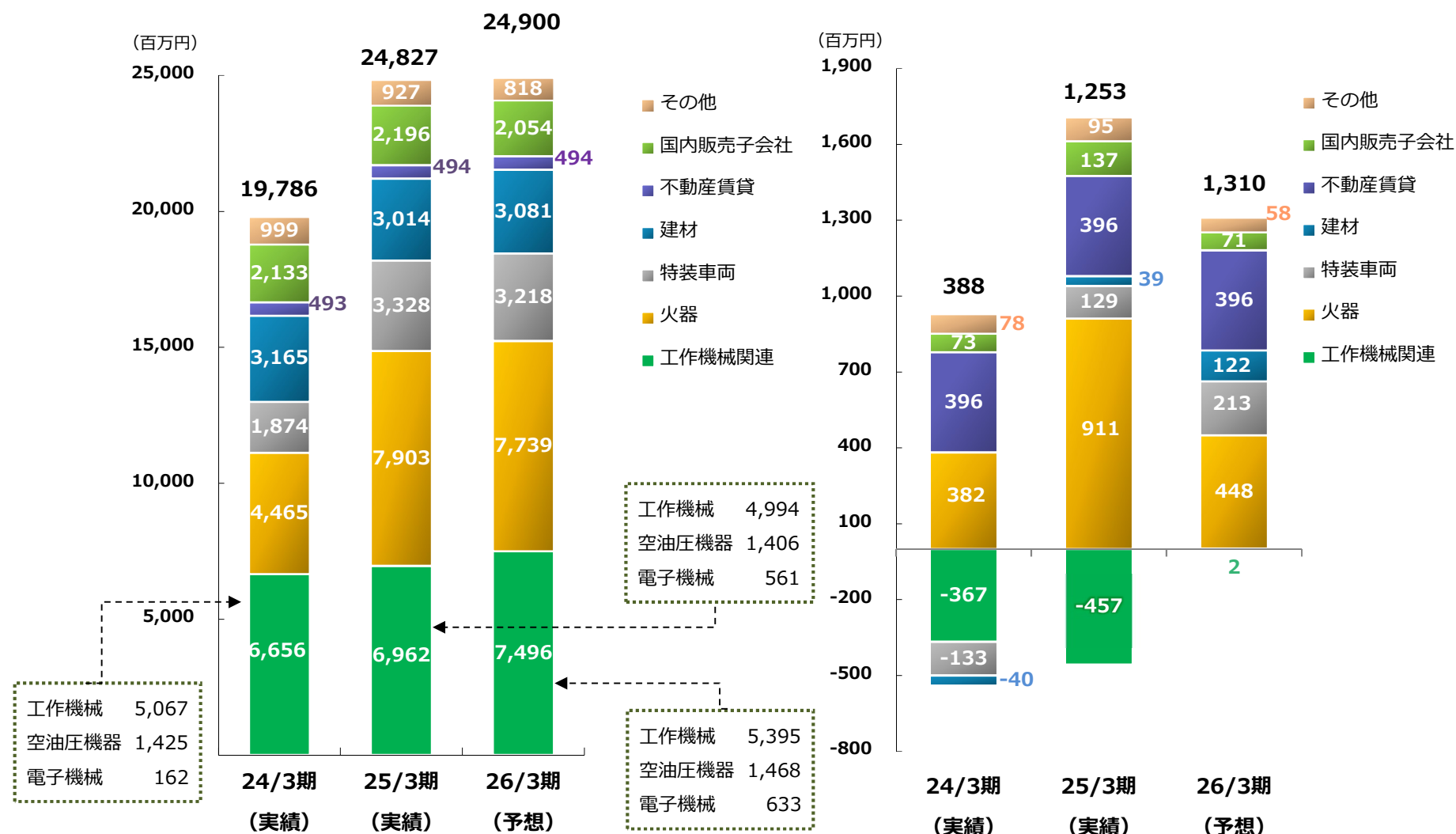


営業利益・経常利益

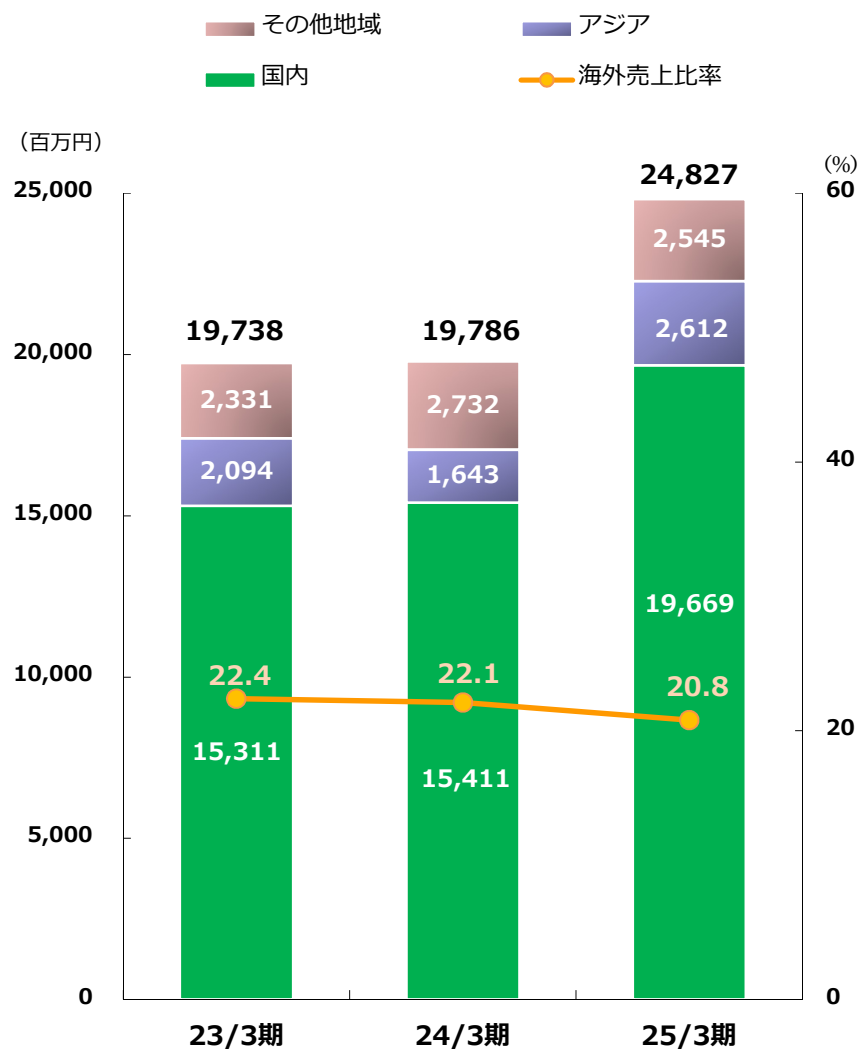


事業別売上高

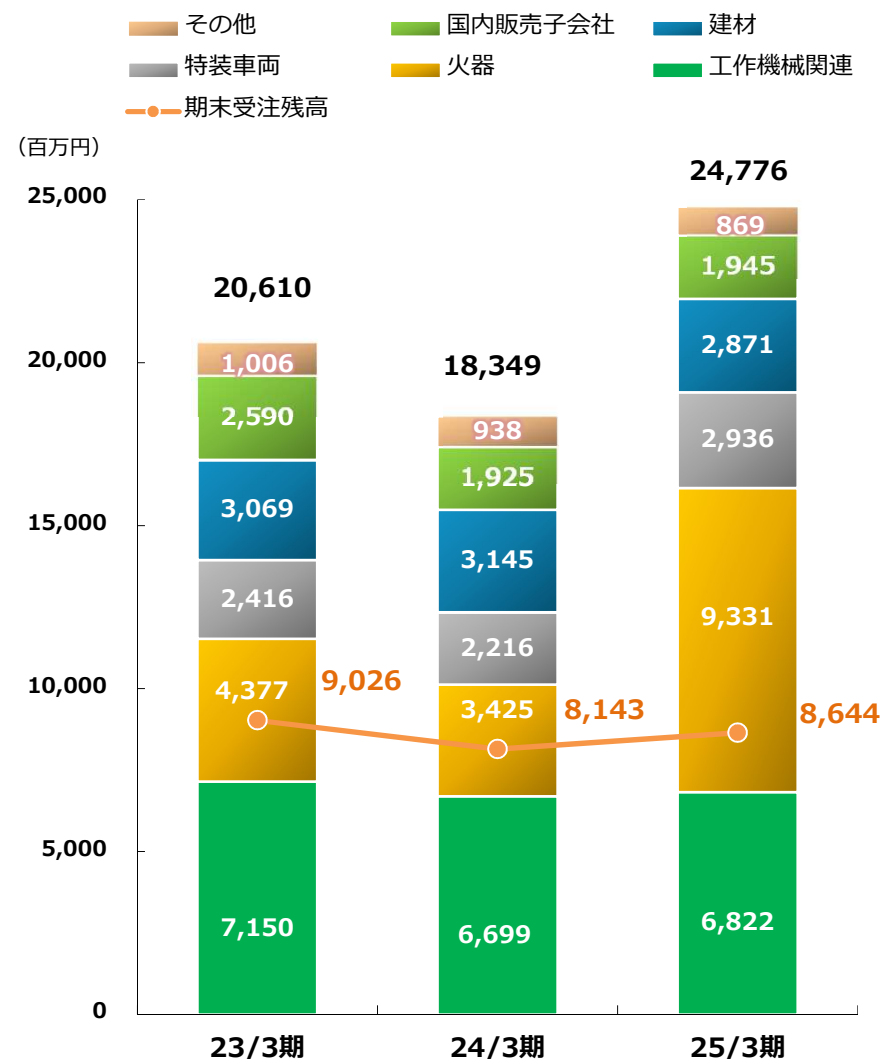
事業別営業利益



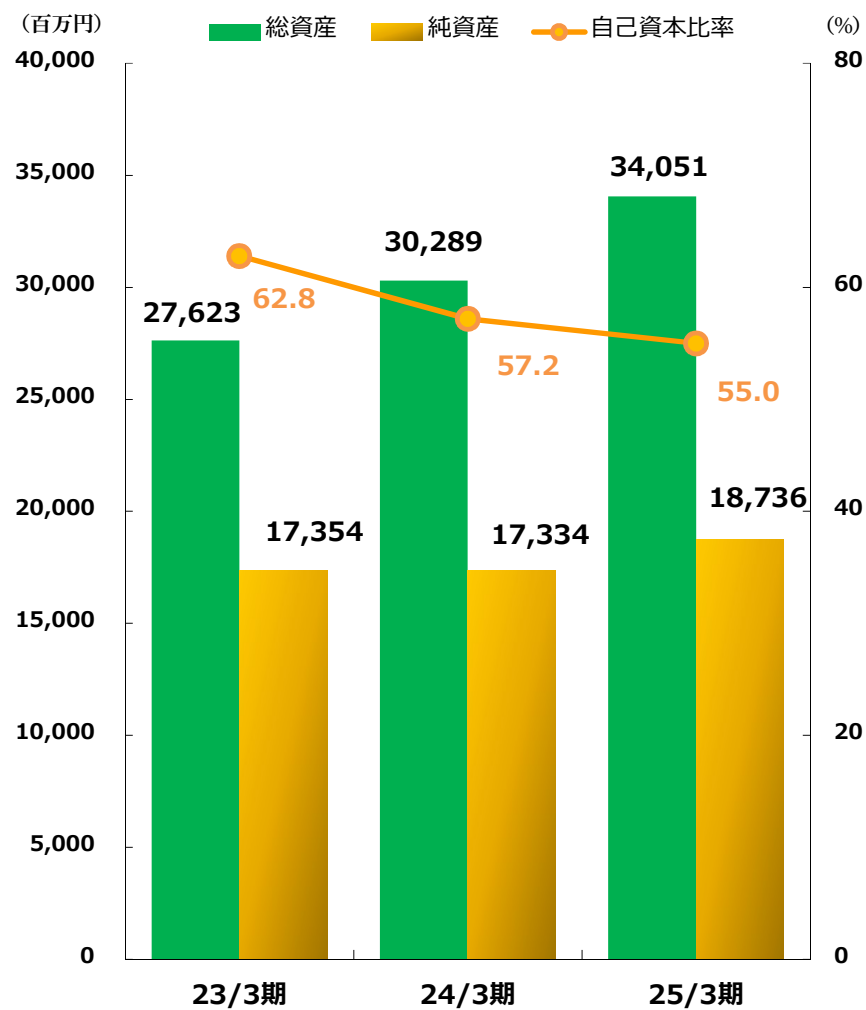
地域別売上高



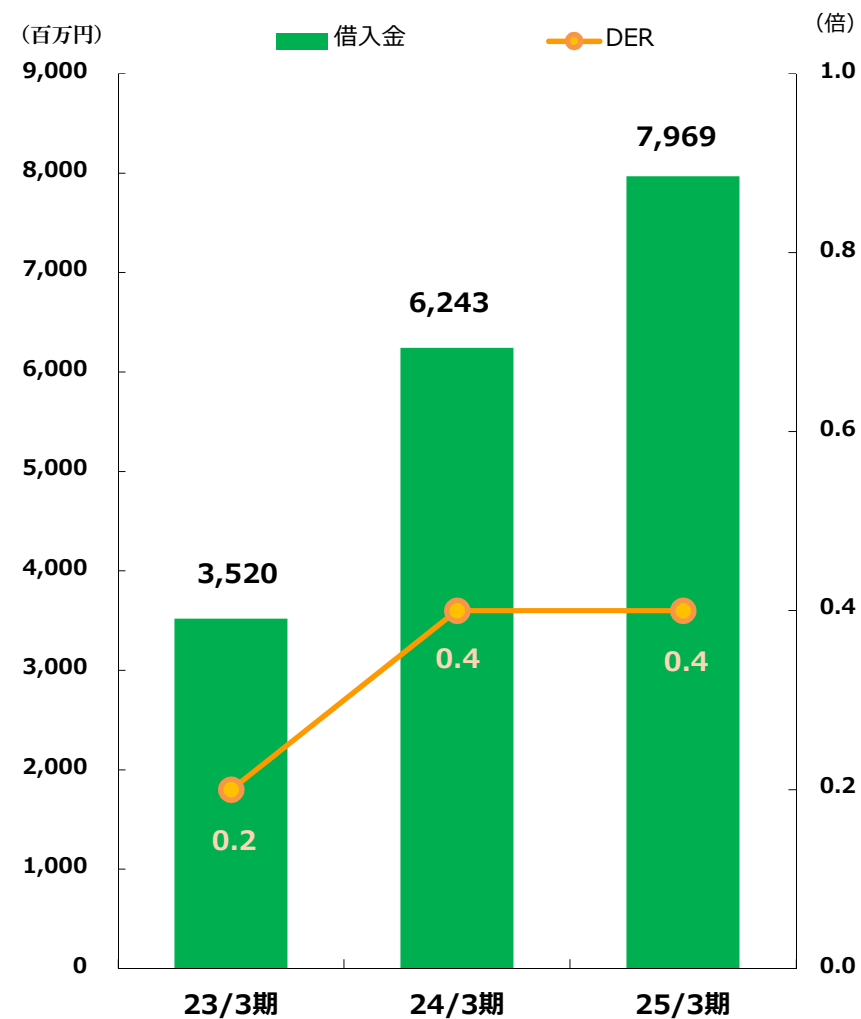
受注高・受注残高



総資産・純資産・自己資本比率



有利子負債残高



※DER (デット・エクイティ・レシオ) = 有利子負債残高 / 株主資本
有利子負債はリース債務を含む

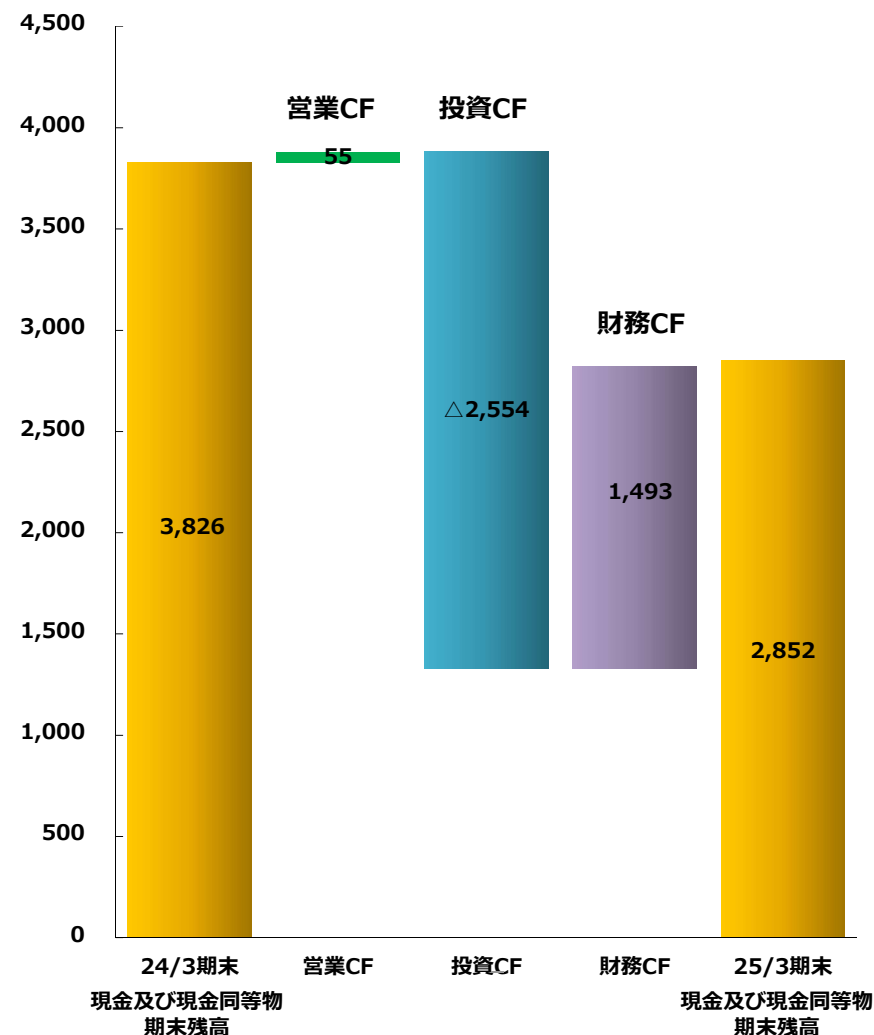
貸借対照表

		2024年3月期		2025年3月期			
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
	流動資産	21,033	69.4	21,604	63.4	+570	売掛金の増加 +2,633 投資有価証券の増加 +1,495
	(現金・預金)	3,897	12.9	2,917	8.6	△979	
	(売上債権)	8,641	28.5	11,633	34.2	+2,992	
	固定資産	9,255	30.6	12,447	36.6	+3,191	
	(有形固定資産)	3,193	10.5	5,017	14.7	+1,824	
資産合計		30,289	100.0	34,051	100.0	+3,761	
	流動負債	6,733	22.2	8,416	24.7	+1,682	短期借入金の増加 +1,439 繰延税金負債の増加 +430
	(仕入債務)	3,225	10.7	3,043	8.9	△182	
	固定負債	6,222	20.5	6,898	20.3	+676	
負債合計		12,955	42.8	15,314	45.0	+2,359	
(有利子負債残高)		6,243	20.6	7,969	23.4	+1,725	
純資産合計		17,334	57.2	18,736	55.0	+1,402	その他有価証券評価差額金の増加 +889 利益剰余金の増加 +504
1株当たり純資産 (円)		1,438.82	-	1,553.55	-	+114.73	

キャッシュ・フローの状況

	2025年3月期
営業キャッシュ・フロー	55
税金等調整前当期純利益	1,206
売上債権及び契約資産の増減額（△は増加）	△2,961
棚卸資産の増減額（△は増加）	1,296
投資キャッシュ・フロー	△2,554
有形固定資産の取得による支出	△2,375
財務キャッシュ・フロー	1,493
短期借入金の純増減額（△は減少）	1,300
長期借入れによる収入	1,448
長期借入金の返済による支出	△1,010
配当金の支払額	△241
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△974
現金及び現金同等物の期末残高	2,852

(百万円)



※その他、現金及び現金同等物に係る換算差額 31

本資料における注意事項



本資料には豊和工業株式会社（以下、当社）の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。

また経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。そのため、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

